子育て
Town Meeting
報告書

2025

8/2 Sat

会場　寝屋川市サービスゲート

www.city.neyagawa.osaka.jp

Ⅰ　開催概要

１　目的

市長と子育て世代の方が直接対話することで、子育てに関する課題等を把握し、子育てしやすいまちづくりにつなげるため、子育てタウンミーティングを実施した。

２　開催日程等

⑴　日時

令和７年８月２日（土）　第１部 10 時 00 分～　第２部 13 時 00 分～

※ 終了後、サービスゲートの見学会を実施

⑵　場所

寝屋川市サービスゲート２階

⑶　参加人数　計 18 人

ア　第１部　７人

イ　第２部　11 人

３　参加対象者

市内在住で妊娠中の方、小学校就学前の子どもの保護者

※配偶者が妊娠中の方を含む

４　頂いた御意見の活用

頂いた御意見については、庁内関係課で共有し、今後の施策・事業を進める上での参考とする。

５　市長からの各回冒頭の説明内容

寝屋川市では、市民が利用する公共サービスの利便性向上を目的に、施設や機能の集約化を進めている。従来、市役所（本庁）や保健福祉センターなど各種手続の窓口は市内各所に分散していたが、寝屋川市駅前にまとめることで、子育て世代やシルバー世代、全ての世代の市民にとって利用しやすい環境づくりを進めている。

その第一歩として、市の西部にあった中央図書館を寝屋川市駅前に移転し、令和３年８月に新中央図書館としてリニューアルオープンした。従来の「学びの場」としての機能に加え、落ち着いた空間で過ごせる「サードプレイス」としての役割を備え、多くの市民に親しまれている。続いて令和７年５月には、市役所（本庁）で行っていた転入転出や税、国民健康保険など年間約 25 万人が利用する各種手続を「寝屋川市サービスゲート」として寝屋川市駅前に移転し、子どもの健診や保育所入所申請も同施設で対応できるようにした。今後は障害者・高齢者関連の手続を市役所（本庁）の１階部分に移転し、サービスゲートと市役所（本庁）に行けば、ほぼ全ての行政サービスが完結できる体制を整える予定である。

さらに、令和８年春には「こども専用図書館」を寝屋川市駅前に新設する。遊具を備えた遊びと読書の一体空間とし、司書だけではなく、保育士、看護師を配置するなど、子育て世代を支援する複合施設とする計画である。また、子どもの一時預かりや自習センターも併設し、利便性を高める。加えて、令和９年には中央図書館上階に生涯学習（多機能）施設を開設し、市民活動や交流の拠点とするとともに、屋上には人工芝やボルダリング、衛生的に利用できる砂場などを備えた広場を整備する。

これらの取組を通じ、市民が安心して暮らし、子育てや学びを支え合えるまちづくりを着実に進めていく。

Ⅱ　意見交換の内容 6
第１部 7
交流スペースについて 7
禁煙ゾーンについて 7
生成 AI の活用について 8
市内の産科について 8
医療証とマイナンバーカードについて 9
道路について 9
打上川治水緑地のトイレについて 10
妊娠・生理体験について 11
健診について 11
大阪公立大学工業高等専門学校（以降：高専）の跡地について 12
夏場の公園利用について 13
市民への情報発信について 14
第２部 15
子育て世代の交流の場について 15
地域で子育て世代が交流できる場について 15
保育園の選定について 16
幼児向けプール施設について 17
香里園の地域協力と交流の場について 18
子育て交流における父親の参加について 18
出産環境・医療体制について 19
萱島の開発について 19

保育所入所手続について 20

ファミリー・サポート・センター事業について 21

サービスゲート見学会の様子 22

Ⅲ　参加者アンケート結果 23

Ⅱ　意見交換の内容

第１部

交流スペースについて

【市民】

RELATTO（子育てリフレッシュ館 RELATTO（リラット））やおやこほっとステーションで顔なじみの保護者と交流することがあるが、その後に一緒に食事をしたり、落ち着いて話せる場所が少ない。ベビーカーを置けて広く、大きな机や授乳室のあるカフェのようなスペースがあると嬉しい。

【市長】

同じ課題意識を持っている。例えば双子を持つ保護者が集まると、人数が多くなり既存のカフェでは対応が難しい。寝屋川市はカフェの数も多くはなく、集まれる場所が不足しているのが現状である。そこで、こども専用図書館では一部スペースで飲食可能とし、持ち込みもできる場所を考えている。お弁当や購入した食事を持ち寄って、子どもを遊ばせながら保護者が交流できるようにする予定である。寝屋川市駅前に立地する無料施設として、保護者同士の交流の場としても活用してもらいたい。

禁煙ゾーンについて

【市民】

小・中学校の児童や生徒、高校生や大学生が通学する通りに住んでいるが、歩きたばこをしている人が多く見られる。禁煙エリアがあるが少し離れた場所でも吸っている人が多いので、禁煙区域の拡大や見回りの強化をしてもらえると安心できる。

【市長】

見回りは強化しているが、人件費をかけ続けるのは難しいため、より効率的な方法を模索している。今後もコストを抑えつつ、効果的な対策を考えていきたい。

生成 AI の活用について

【市民】

仕事でもプライベートでも AI を使う機会が増えており、今後教育分野にも大きな影響があると感じている。現状ではまだ具体的な事例は少ないが、もし教育や行政に AI 活用の事例が出てきたら、寝屋川市でもすぐに取り入れてほしい。

【市長】

既に一部では活用しているが、現状は内部で検討を進めている段階。

また、市役所の電話対応を減らしていこうと思っている。電話対応には非常に高いコストがかかっている。市役所の仕事は臨機応変に対応することが難しく、法律で定められた枠内で行われていることから、AI による対応が可能であり、市役所は、電話対応が必須であるという考え方を見直すべきだと考えている。

市内の産科について

【市民】

分娩を扱っている産院が少ないと感じている。市内では藤本病院ぐらいしかない。香里園の人は枚方の病院に行く。妊娠や産後にトラブルがあっても、市内で簡単に病院に行けない。病院を増やすのは市では難しいと思うが、助産師のケアについて、妊娠中の方等に広報としてアピールしていったらよいのではないか。

【市長】

ニーズが多様化したことや、高齢出産に対応するために高度医療を求め、大阪市内の病院にかかる人もいる。

寝屋川市には助産師が多い。助産師にお手伝いをお願いできないかということで、出産から産後まで同じ人が付き添う仕組みとして「MY CITY 助産師」を導入している。

医療証とマイナンバーカードについて

【市民】

医療証は紙で発行されているが、マイナンバーカードと一緒にできないか。

【市長】

現状、国のシステム設計の問題で紙の医療証とマイナンバーカードを統合できていない。国も各自治体から要望を受け、運用を検討しているところで、今後システム改修を行う予定。ただし、改修費用の負担割合については、自治体側に負担を求められる可能性があり、対応には注意が必要と考えている。

道路について

【市民】

寝屋川警察署付近の国道 170 号線について、自転車レーンで子どもを自転車に乗せていると、車道との距離が近く危険に感じるのでポールを立てるなど、安全対策を考えてほしい。

【市長】

必要だと思っているが、寝屋川市の道路は非常に狭い場所が多く、ポールを立てると車が通れなくなるケースがある。

道路には国道・府道・市道・私道があり、市が直接管理できるのは市道だけである。国道や府道は、それぞれ国や大阪府が管理しており、市が勝手に設置はできない。市民からすると寝屋川市内の問題なのに、市の判断だけでは動かせないという事情がある。ただ、安全確保の必要性は理解しており、市道については通行量が多いところなどで寝屋川警察と協議のうえ設置を検討したい。現状では駐車防止のためにポールを立てるケースが多いが、自転車や歩行者の安全のためにどう整備していくかは寝屋川市の長年の課題であり、すぐに解決できるものではないが、しっかり考えていきたい。

打上川治水緑地のトイレについて

【市民】

打上川治水緑地に整備予定のトイレについて、清潔さや安全性を希望する。高槻市の安満遺跡公園のように夜間は閉鎖することで清潔さを保つとともにいたずら防止につながるのではないか。

【市長】

公共トイレは汚れやすく、維持管理の課題は認識しており、対応していきたい。打上川治水緑地はダムの役割を持っており、大雨の際には緑地内が水没する。そのため敷地の下部には建物や電気設備を設けられない事情があり、トイレも下部には設置できない。せせらぎから近い上部の中央付近にあるトイレを改修して綺麗にしたいと思っている。また、夜間閉鎖などの運用方法についても検討していきたい。

妊娠・生理体験について

【市民】

妊娠や生理の体験について、自身も妊娠時につわりがひどく大変だったが、人によって症状は異なり、理解が難しい。海外では男性が妊娠体験をしている事例もあり、日本でも企業で生理体験を導入しているのを知った。お腹が痛くなる機械を使った段階的な体験を行うものもある。市のイベントで無料実施や、夫に体験させるためのインセンティブ（例：リラットの無料券や一時保育券など）をつけるなどの仕組みがあれば良いと思う。また、中学生の段階で男女問わず体験できれば理解が深まる。

【市長】

妊娠体験は自身も経験があり非常に重く感じた。生理体験についても興味深く、仕組みを調べてみたい。市のイベントで実施するのは面白い取組であり、特典を付与する形で参加を促すことも考えられる。課題は、体験型イベントはどうしても意識の高い人しか来ないため、理解が不足している層に届かない点で、仕組みを考えていく必要がある。

健診について

【市民】

７か月の子どもがいるが、４か月健診以降、健診がなく不安なので、半年健診が欲しい。４か月健診も流れ作業的に感じる。４か月健診以降、助産師との相談はあっても医師の診察はなく、また、近くに小児科がなく、不安がある。

【市長】

健診は診るべきポイントに絞るため機械的に見えるが合理的な面もある。義務の健診として全員を対象にするのではなく、不安な人が相談できる仕組みを考えたい。小児診療は人手が必要ではあるが、報酬が低く、課題となっている。昼間は他院にかかれるが、夜間の受診は北河内こども夜間救急センター（枚方市）まで行かねばならず負担が大きい。理想は在宅で専門医が往診し、必要に応じて薬を処方できる仕組み。小児専門医による訪問サービスが利用できればいいが、訪問診療の国の診療報酬が下がったこともあり難しいため、市が補填して独自に仕組みを導入できないか話し合いなども実施している。

大阪公立大学工業高等専門学校（以降：高専）の跡地について

【市民】

リラットを利用したが、とても良い施設だった。香里園在住だが、高専跡地に子育て支援施設をつくれないか。

【市長】

高専跡地は大阪府の所有地で、市としても公共施設を求める声は承知しているが、今後 30 年間で既存施設の維持更新に約 2,100 億円が必要と試算されており、新たな施設建設は極めて厳しい。人口は転入超過で持ち直しつつあるが、少子高齢化により全体としては減少傾向にあるため、一人あたりの負担を増やさずに施設を維持するためには「ダウンサイジング（集約化・複合化）」が不可欠だと考えている。

例えば中央図書館は以前より床面積を減らしたが利用者数は倍増しており、稼働率を高めれば市民満足度を保ちながら施設規模を縮小できる。こどもセンターと図書館の合体のように、用途の異なる施設を組み合わせることで効率的に活用する仕組みを進めている。

今後は市全体で利用する「ターミナル施設」、地域密着の学校や公園といった「地域施設」、そして「準ターミナル施設」として駅周辺に小規模の自習室や子育て支援拠点を設ける、という３分類で整理していく方針。巨大な新施設建設は難しいが、代替的な拠点は検討したい。

なおリラットを廃止する予定はない。ただ立地は駅から遠く、真夏の利用は負担が大きいなど利便性に課題がある。公共施設は余っている土地に作るのではなく、市民が実際に利用しやすい場所に設けるべきだと考えている。将来的には、駅前に寄せるなどのあり方も含めて検討が必要だと感じている。

夏場の公園利用について

【市民】

夏の暑さで公園の遊具が熱くなり、子どもが使えない。近くの公園で済ませたいが、暑すぎる。リラットやイオンは遠く、自転車移動では負担が大きい。できれば近くの公園で無料で遊ばせたい。遊具に屋根を付けるなど対策はできないか。

【市長】

二つの方向で考えている。一つは、公園のリニューアルである。現状はお年寄り、子育て世代、小学生からも満足度が低く、誰もが少しずつ不満を持っている。理由は、犬の散歩、ボール遊び、水遊び、健康遊具、木陰など、世代ごとに求める機能が違うのに、すべてのニーズを一つの公園で満たそうとしているからである。その結果、最大公約数的な内容になり、満足度が全体的に下がっている。

今後はターゲットを分け、お年寄りが楽しめる公園、子育て世代向けの公園など、役割を明確化していきたい。例えば、フェンスを設置して安心して子どもを遊ばせられる公園にしつつ、時間帯によっては小学生のボール遊び場としても活用できるようにすれば、稼働率を上げながら満足度を高めることができる。

もう一つは既存施設の有効活用である。既に校庭の一部をボール遊びが可能な場として開放している。さらに全ての小学校体育館にはエアコンを整備するので、夏場に体育館を地域に公開できないかと教育部局に提案している。安全管理などの課題はあるが、解決すべき問題であり、クーラーの効いた広い場所を開放できれば、子どもたちに快適な遊び場を提供できると考えている。既存の施設を活用することで顧客満足を高めることができる。教育部局との調整が必要だが、前向きに進めていきたい。

市民への情報発信について

【市民】

ブルーインパルスを見た際に、防災無線での呼びかけが非常に良かった。既存の設備を一つの用途に限定するのではなく、新しい視点で違う使い方をする取組は、市民満足度を高める工夫だと思う。今後もこうした発想で改革を進めてもらいたい。

【市長】

実際には、批判を受けるギリギリの判断をしていることもある。しかし、市民と行政との距離を縮め、互いに近い関係を築いていくことが重要だと考えている。距離が近づけば、行政が冷たい対応をすることも、市民が一方的に不満を抱くことも減り、より多くの人が喜べる仕組みをつくることができる。一部から否定的な声があがることは避けられないが、多くの市民が一体となって楽しめる、例えば祭りのような輪を広げていきたい。大切なのは、市民の考えと行政の方向性がずれないこと。これがずれてしまえば行政の責任であり、そこは決して外さずに、今後も進めていきたい。

第２部

子育て世代の交流の場について

【市民】

地域コミュニティアプリのピアッザは良いサービスだと思うが、活用されていない印象がある。また、リラットのミーティングルームは子育てサークルでしか使えず、不便に感じる。

【市長】

行政が行うサービスは広がりにくい面があるが、こども専用図書館（令和８年春オープン）では子育て世代が交流できるような場を提供したい。

図書館という名称だが、司書・看護師・保育士が同じフロアで対応できる複合型施設とし、自由に集まれる空間を提供。誰でもスペースを使えるようにし、そこから自然発生的に情報交換やグループ活動が生まれる仕組みを整えている。多胎育児など、複数の子どもがいる家庭も安心して利用できる自由な場を目指している。

地域で子育て世代が交流できる場について

【市民】

育休中で、土日は保育園が休みのため、地域の人と関われる場所が少ない。

地域で子育て世代同士が交流できる場や、お母さん同士で集まれる場所が欲しい。

【市長】

公共施設は、市民全体が利用するターミナル施設、学校・コミセンなどの地域施設、その中間となる準ターミナル施設の３つに分けて整備している。日常的に使える自習室や子育て教室などの機能を持った小型の公共施設を、香里園駅前や萱島駅前にブランチとして設置する計画。

巨大な施設は作れないが、代替として、コミセンなど既存施設の一部を活用して、地域で子育て世代が集まれる場を提供することも検討している。

寝屋川公園駅には望が丘小中学校内に望が丘ブランチを設置したので、香里園、萱島にも設置したいと考えている。

保育園の選定について

【市民】

小規模保育園を卒園した後の園選びにおいて、給食費や制服代など園ごとに費用が異なり負担がある。自由に選べない状況では、子どもを希望の園に通わせられない場合や、遠方の園への通園で時間的負担も大きくなる場合がある。

【市長】

園ごとに特色を出すことは重要であり、食育に力を入れている園や、独自の教育カリキュラムを実施している園がある。これを一律化してしまうと、逆に不公平が生じる可能性がある。そのため、保護者が園の特色を選べる自由度を高め、園側も来園する保護者のニーズを把握できるような仕組みに改善していく考えである。

また、現行の入園点数制度について、分かりにくいとの指摘がある。今後は、子どもと接する時間の長さや送迎負担を点数化するなど、合理的で透明性の高い制度への見直しを検討している。これにより、兄弟入所や遠方通園などの負担も適切に反映される見込みである。市が一方的に割り振るのではなく、保護者と園双方の希望を反映したマッチングを行うことで、保護者と園の双方にとってのミスマッチを減らすことを目指す。園側も、自主性を持って努力した分だけ保護者を受け入れられる体制となり、保育サービスの質向上につなげる。給食費や教育サービスの無償化についても、園ごとの特色やサービス内容を総合的に判断して検討し、寝屋川市で子育て・教育を希望する保護者に選ばれる子育て・教育環境づくりを推進していく。

幼児向けプール施設について

【市民】

幼児が遊べるプールの施設を熱望している。特に浅い水深が確保されていて、子どもが安全に遊べる場所を市内に作ってほしい。高槻や茨木まで行かなくても、市内で同様の体験ができるようにしてほしい。

【市長】

来年の夏までに間に合えばと思い、既に整備を進めている。場所は打上川治水緑地で、現在の小川に地下水をポンプアップして流すことで清浄な水を確保する。川幅を拡幅し、直径 15～20 メートル程度の円形プールを 3 箇所設置し、水深は最大 20～40 センチに設定する。ウォータースライダーも設置し、無料で利用できる天然プールとして計画している。

周囲には芝生を整備し、日陰を確保するためにシェイドや自然素材のネットを設置。保護者が安心して見守れる環境を整える。さらに、万博で見られるような白いミストを導入し、自然の川遊びとプール的要素を融合させた、他市にはない特色ある施設を目指している。設計は最終段階で、来年の夏のオープンに向けて準備を進めている。

香里園の地域協力と交流の場について

【市民】

香里園に住んでいるが、駅周辺にはおむつ替えの設備がなかったり、文化的な施設が駅から遠かったりする現状がある。市だけに頼るのではなく、地域のマンパワーを活かして貢献したい人も多い。例えば、個人で施設のスペースを活用し、子育てや地域交流の場を作る取組を支援するなど、地域と一緒に進められる形にしたいと考えている。

【市長】

香里園に自習や子育て交流の場としてのニーズが高いことは把握している。一定の施設の広さが必要なため、コミュニティセンターなど既存施設の暫定的な利用も検討している。また、萱島地域の暫定施設や店舗の活用など、地域と協力して柔軟に対応できる仕組みについても頭に入れて進めていく。

子育て交流における父親の参加について

【市民】

働きながら主夫をしているが、子育ての交流はどうしても母親同士が中心になり、父親は遠ざかりがちになる。父親も参加できるような仕組みが必要だと考えている。

【市長】

父親向けの料理教室なども行っているが、参加は限定的になっている。子どもを通じた共通の場であれば、父親も自然に受け入れられる可能性があると考える。交流の初期段階を行政がコーディネートし、父親も参加しやすい仕組みを整えることが有効であり、今後の施設整備時に考慮していく。

出産環境・医療体制について

【市民】

寝屋川市内で出産できる病院が少ない。妻が持病を抱えていたため地元では断られた。市として出産の場やサポートを整備できないかと思う。

【市長】

寝屋川市内にもかつては複数の出産可能な病院があったが、少子化や出産ニーズの多様化（高齢出産の増加など）の影響で減少している。市として病院の経営状況や負担を直接支援することは難しいが、寝屋川市では助産師が豊富で、産前から産後まで同じ助産師が支援する「MY CITY 助産師」制度を運用しており、こうした仕組みを活用して出産・産後ケアを支援している。

萱島の開発について

【市民】

萱島は開発が難しいとのことだが、何が難しいのか知りたい。

【市長】

萱島駅周辺の開発は、市の他エリアと比較して難易度が高いとされている。その背景には、地域の現状と公共施設の配置が関係している。香里園駅は、比較的人気があり、若い子育て世代が多く、駅前の商業施設も充実している。一方、寝屋川公園駅は高齢化が進み、人口減少やバス本数の減少、駅前の大型ショッピングセンターや金融機関の撤退など、負のスパイラルが顕著であった。寝屋川市駅は乗降客数が多いものの、駅周辺に商業施設が少ない状況であった。萱島駅についても、シャッター街が広がるなど、公共施設や商業環境が十分ではない状況である。住居購入時に重視される公共施設は「学校・保育園」と「公園」の二種類に限られ、行政が整備できる範囲にも制約がある。このため、寝屋川公園駅では、小中一貫校の整備など、戦略的な公共施設投資によって人口増加に成功した。寝屋川市駅では、公共施設を集めた「ターミナル化構想」により、年間数十万人規模の人流を生み出し、駅の人気ランキングも向上した。

しかし、萱島駅周辺には学校や大規模公園、行政拠点がなく、成功するための投資対象も限られる。既存の商店街など地域資源を活用した工夫が必要で

ある。萱島駅周辺の開発は、限られた投資でどれだけ人を呼び込めるかが課題であり、戦略的かつ創意工夫のある取組が求められる。

保育所入所手続について

【市民】

育休明けに希望する保育所に入れず、市内全ての保育所に電話したが断られ、最終的に認可外保育所に入所。その後、４月から認可保育所に入所した。

認可外保育所は柔軟に対応しており努力している印象がある一方で、公立保育所は担当者によって案内内容が異なり、市民として混乱や負担を感じた。

【市長】

担当者によって案内内容が異なる場合は改善が必要であり、「業務監察 X」により通報内容や問題事例を検証し、行政側の課題を特定する仕組みを運用している。保育所手続だけでなく他の行政手続についても同様の改善を進めており、問題があった場合は過去のやり取りを検証して、行政側・市民側双方の状況を確認する。

さらに、AI による会話型対応の導入を検討しており、電話対応の効率化や情報の一貫性を確保することで、業務量の削減を見込んでいる。今後も市民の意見を行政に反映させ、手続の透明性・一貫性を高める取組を進めていく。

ファミリー・サポート・センター事業について

【市民】

ファミリー・サポート・センター事業は素晴らしいと感じている。祖母も制度に関わることでいきがいを持っているが、まだ余裕があるため、もう少し協力できるのにと思う場面もあるとのこと。資格取得に時間がかかることや、講座のタイミングのずれなど、制度運用上の課題もある。60～70 歳の元気な世代も活用の余地があると感じている。

【市長】

保育現場で活躍できるシルバー世代向けの新バージョンを作ることで、ファミリー・サポート・センター事業の活用実態に即した改善を検討する。

サービスゲート見学会の様子

Ⅲ　参加者アンケート結果

子育てタウンミーティングについて（どれか一つ）

設問	件数	割合
とても満足	6	66.7%
満足	3	33.3%
やや不満	0	0%
不満	0	0%
合計	9	100.0%

「満足」と感じた理由や、印象に残ったことがあれば教えてください。（任意）

- 普段関わる機会が少ない市政関係者や市長と直接話せる貴重な時間だった。
- 個人の意見を市長に直接聞いてもらえる機会は非常に有意義だった。
- 市長の市政改革や子育て施策に対する強い思いが印象的だった。
- 市長の考えや今後の展開を直接聞くことで不明点が解消され、理解が深まった。
- 保育園の加点方法改善など、具体的な施策に対する感心や納得感。
- 他の子育て世代の意見も聞けたことで、自分の悩みが共通していることを実感し安心できた。
- 一時預かりや参加者への配慮など、様々な気遣いがあり楽しく参加できた。

時間について（どれか一つ）

設問	件数	割合
長すぎる	1	11.1%
少し長い	2	22.2%
ちょうど良い	4	44.4%
少し短い	2	22.2%
短すぎる	0	0%
合計	9	100.0%

イベントの開催曜日と開催時間帯は、次のどれが良いですか。（どれか一つ）

設問	件数	割合
平日　午前中（10 時～12 時）	0	0%
平日　午後（13 時～16 時）	0	0%
平日　夕方（16 時～18 時）	0	0%
平日　夜（18 時～20 時）	0	0%
土日祝　午前中（10 時～12 時）	6	66.7%
土日祝　午後（13 時～16 時）	2	22.2%
土日祝　夕方（16 時～18 時）	0	0%
土日祝　夜（18 時～20 時）	0	0%
長期休暇　午前中（10 時～12 時）	0	0%
長期休暇　午後（13 時～16 時）	1	11.1%
長期休暇　夕方（16 時～18 時）	0	0%
長期休暇　夜（18 時～20 時）	0	0%
合計	9	100.0%

次回もこのようなイベントに参加したいと思いますか。（どれか一つ）

設問	件数	割合
ぜひ参加したい	8	88.9%
都合がつけば参加したい	1	11.1%
あまり参加したくない	0	0%
今後は参加しないと思う	0	0%
合計	9	100.0%

普段から公共施設の利用、市主催の子どもに関するイベント等へ参加されていますか。（どれか一つ）

設問	件数	割合
よく利用・参加している	2	22.2%
利用・参加している	3	33.3%
あまり利用・参加していない	4	44.4%
利用・参加していない	0	0%
合計	9	100.0%

利用している施設・参加しているイベントを教えてください（任意）

- ブランチ
- リラット
- つどいの広場「はる」
- エールこども園子育て支援センター
- おやこほっとステーション
- 図書館での絵本の読み聞かせ
- 寝屋川公園
- 寝屋川まつり
- 月見とランタン
- 桜ライトアップ

寝屋川市の施策・サービスに満足されていますか。（どれか一つ）（任意）

設問	件数	割合
とても満足	1	11.1%
満足	8	88.9%
やや不満	0	0%
不満	0	0%
合計	9	100.0%

寝屋川市の施策・サービスについて、満足・不満と感じた点があればご記入ください。（自由記述欄）

- 市役所の機能を１箇所に集約したことや、水道料金の基本使用料免除など、市民に直接還元されている
- ねや COCO やもっと寝屋川などのアプリが便利で大満足
- リラットなどの遊び場が便利
- 保育園の申し込みで兄弟枠があるのは助かる
- 第二子以降の保育料無償化は嬉しい

- リラットなどで、月齢０～２歳の子が遊べるスペースが狭く、上の子とぶつかることがある
- 保育所が少ない
- 第一子の入園が難しくなるのではないか心配
- 保育園の点数制度に配慮してほしい
- ファミリーサポート制度で、上の子の送迎中に下の子を一時的に預かってもらえる体制があると助かる
- 第一子からも保育料が無償だとさらに良い

令和7年度子育てタウンミーティング報告書（令和7年 10 月）

寝屋川市　経営企画部　企画二課
〒572-8555　大阪府寝屋川市本町1番1号
URL　http://www.city.neyagawa.osaka.jp
E-mail　kikaku02@city.neyagawa.osaka.jp